



キンボールスポーツ ワールドカップ2024

2024年11月5日(火)から10日(日)にかけて、韓国・烏山(オサン)市においてキンボールスポーツワールドカップ2024とインターナショナルオープン2024が開催されました。ワールドカップは男子、女子の2部門で13の国と地域から参加があり(スペインは男子のみ)、日本は男女各1チームを派遣しました。コロナ禍を経て実に5年ぶりの開催です。



試合形式は11点制、4ピリオド先取方式。この形式はいずれかのチームが9点に達した時点で最も点数の低いチームが脱落し、その後残りの2チームで戦うものです。予選は世界ランキング順に上位7チームのプールA、8位以下のプールBで行います。次のクロスオーバーラウンドではプールAの予選6位と7位、プールBの予選1位で試合をし、予選の6位～8位を決めます。プールBの予選2位～4位で試合を行い、勝者が予選9位となります。予選9位までのチームが準決勝(エリミネーション)に進みます。準決勝のシステムの説明は割愛しますが、本当に強い3チームが決勝に進む、実力が反映されたものになっています。日本は男女ともに大会時世界ランキング3位のためプールAで予選を行い、ともに3戦全勝。予選1位で通過しました。準決勝では男女ともに勝利し、早々と決勝進出を決めました。



大会最終日。いよいよワールドカップの決勝戦が始まります。まずは女子。オープニングは各国選手と

堂々の金メダルを掲げた男子、
カナダに2勝するも銀メダルに涙した女子



コーチを1人ずつ紹介し、3カ国の国歌斉唱が行われました。会場の雰囲気はピリッと引き締まります。第1ピリオド、第2ピリオドをカナダがとり、第3ピリオドに入ります。日本9点、カナダ8点でベルギーが脱落。カナダにミスが出たりして、3点差で日本が第3ピリオドをとります。勝負の第4ピリオドはベルギーが脱落し、日本、カナダともに9点の場面でラリーが続きます。どちらも落とせないピリオド。日本のフェイクヒットが功を奏し、あと1点。ところが次のプレーでカナダに点数が入り、ともに10点に。ここで日本がタイムアウトをとりましたが、流れはカナダにありました。カナダのヒットが決まり、このピリオドもカナダがとりました。これでカナダは3ピリオドをとり、王手。日本は1ピリオドのみ。もう後がありません。第5ピリオドはベルギーが8点をとった時点で、カナダと日本が7点。この2国の勝負となりました。ともにボールに食らいつきますが、日本がクローズディフェンスを行ったためにできた守備のいない空間にカナダがヒット。日本チームは動けず。これで日本は脱落し、カナダとベルギーの結果に賭けることになりました。勝利を確信したのかカナダの調子はさらに上がり、ベルギーの攻撃を寄せつけません。ベルギーに1点も与えることなく第5ピリオドを取り、金メダル。ピリオド数で上回った日本が銀メダル、ベルギーが銅メダルとなりました。

